
■ JXホールディングス(5020) 2012年度第1四半期決算 アナリスト説明会 Q&A

1. 日 時 : 8月6日(月)15:30-17:00
2. 出席者数 : 126名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 水島製油所B工場の生産再開について見通しはあるか。業績への影響はどの程度か。

A. 水島製油所B工場における高圧ガス保安法に関する不備についてはご心配をおかけしており心よりお詫び申し上げます。関係当局のご指導を仰ぎながら、原因究明と再発防止策の策定に努めている段階であり、現時点ではどの設備をどの程度の期間停止するかについては明確になっていない。このため、影響額の算定はできておらず、今回の通期見通しにも織り込んでいない。影響が明らかになった段階で必要に応じ見通しの修正をすることとなる。

Q. 石油精製販売事業の通期見通して石油製品の「燃費・マージン他」が±0となっているが、その内訳は。

A. 4-6月の石油製品マージンの悪化によるマイナスを、今回の原油価格前提の引き下げに伴う自家燃料費の改善でオフセットできる見通しとしている。なお、7月以降の石油製品マージンは5月公表時の前提並としている。

Q. 開発中のカセロネス鉱山の進捗状況は。銅価格が360~380セント/ポンドで500億円程度の利益貢献があるとのイメージを持っているが、それに変更はないか。

A. カセロネスの開発は順調に進んでいる。予定通り2013年1月からSX-EW法による電気銅が、2013年9月より銅精鉱が生産開始となる見通し。収益貢献についても、従来ご説明している水準から大きな変化はないというご理解で結構である。

Q. 銅価格の見方について教えて頂きたい。

A. 7月以降350セント/ポンドとみている。ここ数か月は330~350セント程度で推移しているが、この背景にはヨーロッパの財政問題や中国経済の減速などによって、リスクマネーが入っていないということがあるとみている。中国については今後個人消費を下支えする政策や、インフラ投資も出てこよう。したがって、銅価格は今後少し持ち直すのではないだろうか。ただし一時のような更に高い水準まで戻るかどうかについては検証が必要だろう。

以 上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

(1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化

(2) 法律の改正や規制の強化、

(3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。